

さわかみ投信の

自立して堂々と生きていこう

さわかみ投信の伝統的なセミナーである「自立して堂々と生きていこう勉強会」。皆さまのご質問から開始する不思議な会を、この紙面に再現してみました。まさに全国で開催する弊社の自立勉強会そのもののかたちです。



50代男性

先月、名古屋で開催した運用報告会に参加しました。この運用報告会の狙いは何ですか？

2012年以前のさわかみ投信は、「月次レポートで投資情報の全てを開示をしているので説明は不要、我々は結果責任のみ受ける」という姿勢でした。しかし企業への長期投資の経験を経て、「企業の不斷の努力、そして未来への可能性をファンド仲間の皆さまと共有したい」と考えが変わりました。「長期航海の船旅では皆で目的地に向かってひた走ろう」だったものが、おかげさまで船自体が安定・堅牢化したため、「船旅途中の景色も皆で楽しもう」と趣向を変えたのです。具体的には、一年の運用の振り返りはもちろんのこと、ファンド仲間の皆さまに投資先企業を見ていただくことで超長期のイメージや長期投資の魅力などを感じていただけたと考えております。そして同時に、企業さんに長期投資家たるファンド仲間に会っていただくことで長期経営への自信に繋がればと。中身を見ない短期利益至上主義は時に企業の成長を阻害します。すると未来に住む私たち自身の社会の発展も危ぶまれます。長期投資で大切なのは、企業が事業リスクをとるなら投資家が投資リスクを共にとることです。それが一致し、同じ目線で未来へと歩んだら社会は皆でつくるものへと変わります。もちろんこのような会を開催できるのは、皆さまが長期でさわかみファンドをお持ちいただいているからこそ。感謝の念に堪えません。最近ですと、出展された企業さん同士のコミュニケーションも活性化しており、新しい何かが生まれる兆候も見え隠れしています！



澤上 龍



60代男性

企業の成長に期待して長期投資をするなら、成熟した企業は投資から外すのですか？

そんなことはありません。時代や状況変化に対応しながら一定の利益を上げ続けることも大切です。成長とは売上や利益額の向上だけではないのですから。そしてそういった企業であれば、相場暴落時などの安値で投資し、上昇局面で薄く利益確定（現金化）した上でまた暴落時に投資する…長期投資のリズムをもって対応します。ちなみに、企業は私たちの見えないところで成長の機会をしっかりと狙っていますよ！実際、日本の多くの企業が成熟期を迎えましたが、衰退せずに生活者に必要とされ続けているではありませんか。それもまた成長と言えるでしょう。



澤上 龍

企業というのは日々活動しており、そのために顧客や取引先、従業員、金融機関や行政機関、そして株主といった多くのステークホルダーを満足させながら、その上で利益確保をし、存在を継続しているものです。そういった中から、より社会を豊かにしていきなり、生活向上に貢献したり、また社会課題の解決に寄与している企業群に、我々さわかみファンドは長期投資、応援投資をしています。こういった観点からすると、その企業が成熟した存在であるとか、ないとか、ということはあまり気にすることではないのかと考えます。先ほどのステークホルダーの観点からすれば、むしろ成熟企業の方が、より多くの取引先や従業員を抱え、社会に対する責任、影響力は、利益的に急成長を遂げているベンチャー企業よりも、多大ではないのか。こういった観点も交えながら、投資先企業に対するリサーチをしています。



正木

成熟したからという理由で投資から外すことはありません。成熟している企業は、その業界において私たちの生活必需品やサービスを提供してくれている生き残った巨人であることもあります。そのような企業が株式市場の都合などで本来の企業価値よりも低い評価を受けている場合はむしろ安心して応援投資をすることができます。もちろん企業の価値が想定している水準へ戻ってくる時には、その企業の今後の展開として新しい花が開こうとしているのか、大きくは変わらないのかなど更なる議論を重ねる必要があります。そういった意味では、一見成熟した企業に見えても、そもそもまだ成長してやるぞという執念がある企業が投資対象となつているとも言えます。



斉藤

表面より



60代女性

いずれ息子たちにファンドを相続しようと考えていますが、すぐに売ってしまわないか心配です。子どもたちがファンドを続けてくれるようなアドバイスをください。

よくいただく質問(ご意見)ですが、最も回答が難しい類の一つです。正直申し上げて、親御さんから継続的に資産運用の重要性や長期投資の魅力をお伝えいただくこと以外の回答が見当たりません。想いの相続は諦めずに時間をかける必要があります。そして同時に、お客さまご自身が資産運用をやっているという背中を息子さんたちに見せ続けることです。あと10~20年もすれば資産運用が更に大衆化されます。そうなってくると今回のようなご相談も減ってくるはずですが、もちろん資産運用を経た大人たちがカッコよく生きているかどうかは問われますが…。現在のように投資をギャンブルとして扱い、またはお得な裏技を探すような小手先の手法がまかり通っていたら、子どもたちは投資に興味を見出せません。金融教育の最重要部分は「コツ」ではなく「生き方」なのですから。弊社の勉強会にお連れいただくのもありますが、私たちよりも親の背中が一番です。それと、息子さんたちがお金を大切に考える当事者になることも大切です。例えば結婚するとか、子を持つとか。そのタイミングを逸しないように、それまではじっくりお伝えください。



澤上 龍

まずはご夫婦で旅行に行ってみるなど、ご自身がゆったりとしたお金の使い方をしてみてはいかがでしょうか？ 続けていけば自然とお子さまがご夫婦の行動に関心がでてくると思います。そこでようやく長期投資の出番となります。ご自身の考え方をお話いただいても良いし、弊社のセミナーと一緒に過ごしていただいても結構です。もし敷居が高いのなら、ご家族5人集めていただければ、講師を派遣することもできます。長期投資の良さを感じていただくきっかけが大事だと思いますが、そのきっかけのキーマンはやはりご家族だと思います。



大野

ありがたいお言葉です。セミナーやお電話で同様の声をいただくとともに、私もどのような方法がいいのか模索中というのが本音です。ご家族で弊社の勉強会や運用報告会等へのイベントにお越しになられた方々にお聞きするのですが、皆さま方法は様々でした。家族で話をして少しずつ贈与を始めた方、相続発生時に遺言書に託されたメッセージを見てさわかみファンドを保有し続けようと考えた方など、家族それぞれの方法があるように思います。ただ、家族のために大切なことを伝えたいという気持ちはあっても、相手が聞く気にならなければ暖簾に腕押しかもしれません。私がこの会社に入ってお金のことを話すことに抵抗がなくなったのは、周囲に笑ってお金の話ができたり、お金の不安なんてどこ吹く風という先輩がいたからですが、自発的に関心をもって行動していくには周囲の良い変化が大切なかもしれません。



中津

今月の

会長語録 答えを聞くな。まず自分で考えろ。次回までの宿題だ。

【ご留意事項】

リスク	さわかみファンド(以下、「当ファンド」という。)は、主に国内外の株式や債券など値動きのある有価証券等に投資します。そのため、組み入れた有価証券等の価格、外国為替相場等の変動により、基準価額は変動等の影響を受けます。これらにより生じた利益および損失は、全て当ファンドの受益者に帰属することとなります。また、元本および利息の保証はなく、預金保険の対象ではありません。したがって、受益者の投資された元本は、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。その損失に耐えうる以上に当ファンドに対して投資することはご遠慮ください。投資信託は預貯金とは異なります。					
購入時手数料	ありません。	信託報酬	当ファンドの純資産総額に対して、1.10%(税込・年率)です。		信託財産留保額	ありません。
その他費用・手数料	当ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に対する消費税等相当額、先物取引・オプション取引等に要する費用、一部解約金の支払資金の手段を目的とした借入金の利息は、信託財産中から支弁します。※これらの費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率上限額等を示すことができません。			留意事項	投資にあたっては、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をよくご覧いただき、ご自身でご判断ください。「投資信託説明書(交付目論見書)」のご請求は、さわかみ投信株式会社(TEL:03-6706-4789)までお申込みください。	

■このレポートは、さわかみ投信株式会社が「さわかみファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。■当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申込みください。■このレポートは、信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動等を保証するものではなく、将来予告なしに変更されることがあります。

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申し込みは…

【さわかみ投信株式会社】金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第328号 一般社団法人投資信託協会 会員 / 一般社団法人日本投資顧問業協会 会員
〒102-0082 東京都千代田区一番町 29-2 TEL:03-6706-4789 FAX:03-5226-7981